

# 温泉治療や養鶏も

## 授産・收容施設の全容決る

水 俣 市

水俣市の水俣病患者を中心とする授産・收容施設の全容がこのほどほぼ決まった。敷き地は水俣市西湯の児湯の児リハビリテーションセンター（市立病院付属）近くで総工費は一億九千八百九十二万円。運営方法がまだ決まっていな

い。総工費は土地買収費のほか建築費が一億三千二百七万円、土地造成費一千万円、暖房施設費一千四百五十四万円、備品費六百八十万円、設計委託費五百万円などがおも。

建設は市でやり、将来の運営を法人組織にしたい意向だが、全国で初めての例であり、変則的な運営が可能かどうか厚生省と折衝中。法人組織にして自転車振興会などの団体の補助を容易にしようとの計画。

授産施設が五十床で名称が「明水園」、收容施設が四十床で「はまゆち園」。敷き地はリハビリ西南の高台で不知火海を一望する場所、一万六千五百平方尺の原野、山林。私有地で三千万円で買収す

る。リハビリの近くにしたのは一帯を事実上のコロニーにするためと、医師陣を容易にするため。温泉を引き温泉療法もする。授産の内容は神経系統の障害が多いため、むずかしい仕事は困難で、温室を利用した草木の栽培や養鶏などが計画されている。

しかし問題は水俣病患者自体がどれだけ入所するかどうかであり、現在開会中の市議会でも取り上げられている。市は今後患者家庭との話し合いにはいる。